

■ 1 年次 現代の国語「同時代の流行歌の歌詞の象徴性を読み深める」

担当：国語科教員

研究課題： C 多様性理解力を育成する取り組み D 創造的思考力を育成する取り組み

仮説

① 現代の流行歌の歌詞の象徴性の高い表現から、具体的な場面や関係性、意味を構築することができる。

② それぞれの妥当な解釈を交換・共有することで、それぞれの読みを深め、広げることができる。

研究内容・方法

(実施期日) 12月20日(金)第6校時

(対象クラス)：1年2組(38名)

(教材) ワークシート

(割当時間) 1時間

(研究主題) 現代の流行歌の歌詞の象徴性の高い表現から、具体的な場面や関係性を読み解き、根拠のある多様な解釈を学習者同士で共有し、読みを深め、広げる。

(授業展開)

① 歌詞の二人称で呼びかけられる人物「君」の属性、「僕」との関係性、場面設定について根拠をもとに具体的な読みを行う。

② 「僕」(語り手)が「君」に抱く「愛」とはどのようなものか、根拠をもとに具体的な読みを行う。

③ 歌詞の世界が1番から3番へと進むにつれて、「僕」にどのような心情の変化が生じているかを根拠をもとに読み取る。

④なぜ多様な解釈が可能であるのか、虚構と現実の関係性について考える。

評価の方法

ワークシート(三段になっており、中段で初読の自身の意見、下段に話し合いを経た他者や変化した自己の意見の記入欄になっている。)での確認、グループでの活動や発言等の観察

検証・課題

(1) 検証

○仮説①について

個々の生徒が別れの場面をそれぞれ具体化して表現できていた。また、別れを物語る抽象性・曖昧度の高い歌詞から、「薄化粧」「普段からメイクしない君」といった具体的な表現に注目し、「別れ」が死別(薄化粧⇒死化粧)を意味すること、「君」が大人の女性であること、といった物語の限定、確かな細部を見つけ出すことは多くのグループで出来ていた。語り手と「君」の関係性を考えたとき、繰り返される「愛しい人」というフレーズから、「愛」の定義を歌詞Ⅱ部から導き出すこと、「寂しみ」という言葉から継続性や内属性を読み取ることは授業者のワークシートの誘導こそあれ出来ていた。

○仮説②について

ワークシートの中段と下段を見比べると、他者の意見やそれを踏まえた自己の意見の深化や拡大を経て、自己の読みが更新され、授業の中で他者の介在により学びの深まりが成立していることが見て取れる(ワークシートによる読みの変容の可視化と見取り)。

(2) 課題

一つは、今回の試みがまだ授業者の介入や方向付けを前提とした協働的な読みであることである。出来れば、課題設定や注意すべき語句の発見・選択も含めて生徒自身が行うというのが、真に主体的な学習者としては理想だと思われる。また逆に、教員が自身の考えを積極的に、根拠や思考のプロセスも含めて提示するというのも、読みを深める上では効果的ではないかという意見も授業後の検討会では見られた。その際は、授業者が教員の意見を絶対化しない、あくまで根拠や思考過程に注目する、といった構えを生徒に身につけさせた上で行う必要があるだろうと思われる。